



帰国のとき

「今月は、5人か……」ATRを退職していく人数です。毎月のことながらこれまで見送っていった人々に思いを馳せていると、社宅退去手続きのサポートを求め一人の研究員がやって来て、現実に戻されましました。「あなたが来たときは桜がきれいに咲いていましたよね。あっという間に夏が過ぎ秋が過ぎて、もうあと2週間で帰国ですね。ここでの生活はどうでしたか？」などと話をしながら、手早く社宅退去届の代筆を始めます。バスのない早朝に社宅を出ると言うので、空港行きリムジンバス乗り場までのタクシーを予約します。続いて、公共料金の精算手続きです。電力会社やガス会社に解約の電話を入れますが、同時に精算日時の予約も行わなければなりません。出国してしまった後では料金を支払うことが困難なため、使用停止の際に社宅で料金を支払うからです。

「これでよしと。他に何かありませんか？」と聞くと、「日本で琴をせっかく習ったので、使われずに眠っている琴を譲ってくれる人を捜すためにチラシを配ろうと思っていますが、日本語に訳すのを手伝って下さい」との答え。いつものことながら、本当にさまざまな依頼や相談がもちかけられるなあと思いつつ、手助けをします。さて、この研究員の帰国が明日に迫った日、再び彼女がデスクに現れました。「見て！」嬉しそうな彼女の傍らには、立派な琴が控えています。「すごい、手に入ったんだ。よかったね！」思わず歓声をあげてしまいました。結局、琴の提供者は見つかりませんでしたが、琴教室の先生が自分の古い琴を譲ってくれたそうです。その日は、大切な琴をなんとかして機内持ち込み手荷物にしたいという希望に応え、研究員と一緒に梱包材で頑丈に、頑丈に梱包し、そして翌日、琴が海の向こうに旅立つのを見送ったのでした。

SHIENの退去支援そのものは、書類代筆を始めとした事務的色合いのものです。ですが、ATR、加えて、日本を離れるということに付随して、それ以外にさまざまな手助けが必要とされます。琴の持ち帰りは、その一例に過ぎません。

荷物が増えて別便で送りたいが、いくらかかるか？ 空港までスーツケースを宅急便で送りたいので、予約して欲しい（この類の相談はよくあります）。車を知合いに売るか廃車にするかしたいが、その手続きは？ 車を母国に持ち帰りたいが、良い運送会社は？ 子供を学校に入れるために、日本での通学証明書が必要なのだが、どうしたらよいか？ 別の国で永住許可を申請するつもりだが、それに必要な日本滞在中の無犯証明はどこで入手できるか？ せっかくなのでアジアの国を旅行した後、日本から飛行機に乗るため便宜的にもう一度日本に入国したいが、ビザの面で問題ないか？（このあたりになると相談はまさにケースバイケースです）

そんな研究員たちを見ていると、ATRでの滞在はすばらしかったし友人もたくさんできたので離れがたいと言いつつも、そこには母国へ帰ることで心弾む表情が見え隠れしています。最終日、彼らからもらった「今まで本当にありがとう。おかげで日本での生活を十分楽しむことができたよ」という言葉は、他ではみられないこの仕事をしていくうえで、大きな励みになっています。彼らがATRに来る前からビザ取得などの支援を始め、滞在中、時にはお花見やバーベキューパーティを共に楽しみながら、生活支援や滞在のために必要な法律手続の支援を行っていきます。そして、やがて去りゆく彼らを見送る日がやって来ると、記念写真を撮りながらいろいろな出来事が思い起こされ寂しさがつります。でも、「またすぐメールを出しますね」と言い、「私の国を訪れることがあれば、必ず連絡してくださいね」と返されると、彼らとの関係は友人としてこれからも続いていくことに気付くのです。

彼らが去るのと入れ替わるように来る研究員があり、ATRには途切れることなく新たな研究員が加わってきます。彼らにより研究に打ち込める環境を築くことを目指して、私たちの支援は続いていきます。



春、飛鳥にて